



平成 29 年 11 月 30 日(木)  
練馬区立開進第四小学校  
校長 佐々木 秀之

# 開四小だより

## 12月号

思いを巡らせ 思いを知る

副校長 桐敷 芳子

今年もいよいよしめくくりの月となりました。先月行われた展覧会には多くの方々においでいただき、大変感謝申し上げます。

\*

さて、開四小の校章の成り立ちを知っている人はどのくらいいらっしゃるでしょうか。学校に残っている資料を調べてみました。

開校30周年、20周年の記念誌に記載があり、更に遡って開校10周年の記念誌には、校章を考案した神山吉雄先生の、校章考案にまつわる言葉がありました。

『松岡教頭から校章の考案を依頼された私は、校名を何とか校章にあらわしたいと苦心した。学校の裏を流れる石神井川の桜を四弁にして「四」を示し、花卉の間に四本の光芒を附して、悠々の空にまばゆく進む光に、本校の姿もかくあれかしと願いをこめたわけである。』

ものごとは、どのようなことがらであっても、そのことに深く関わった人の熱い思いで成り立っているのでしょう。「何故こんなことがあるのか」と、疑問に思うようなことがあったとしても、それは、そのことに意味がない、価値がないのではなく、自分が知らない、分からないだけなのかもしれません。今では習慣的に行っている取組も、始めたときには皆であれこれ知恵を出し合ったのだと思います。どのような思いで、何を目標としていたのかについて、今いる私たちが思いを巡らせ、課題を改善しながら、更に新しい取組にしていくことが大切ではないかと思に至りました。

神山先生の言葉は、次のように締めくくられています。

『親校（開進第三小学校）の校章の花卉よりずっと細身にしてシャープな感じを出し、近代感覚にマッチさせつつもりであるが、消防署のマークに酷似しているといわれ、がっかりしたことも、今はなつかしい思い出となった。』

子供たちは今も神山先生のデザインした校章を付けた帽子をかぶり、元気に登校しています。開校間もない当時の人たちの開四小に寄せる思いを知り、校章にも、学校にも、改めて思いを強くしました。いよいよ12月。今年関わった様々なこと、お世話になった方々のことをもう一度思い出し、感謝の気持ちをもって過ごしたいと思います。